

## シマスズメノヒエ (鳥雀の稗)

名前の意味：小笠原<sup>おがさわら</sup>で初めて採集されたので、島とついた。小笠原<sup>おがさわら</sup>諸島<sup>しょとう</sup>原産の植物には、よくシマという言葉が付けられる。スズメは、似<sup>に</sup>ているが役立たない植物に付けられる。

分類：単子葉類、イネ科、スズメノヒエ属

(イネ科の栽培植物<sup>さいばいしょくぶつ</sup>：イネ、コムギ、トウモロコシ)

好きな場所：日当たりのよい湿<sup>しめ</sup>った道ばた、空き地

分布：本州、四国、九州

原産地：南米

特徴：斜<sup>なな</sup>めに立ち上がる茎<sup>た</sup>、小さな円盤<sup>えんばん</sup>を重ねたような花序<sup>かじょ</sup>の枝

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：2枚 (小さくて目で見てもよくわからない)、離弁<sup>りべん</sup> (花びらが1枚ずつ散る)

花の時期：7—10月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：メヒシバやオヒシバとは、小穂<sup>えんばんじょう</sup>が円盤状であることで区別できる。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)